

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2014.12.15

NO.220
.....

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|---------------------|------------------------|
| ■ 理事会だより2 | ■ 研究会・支部だより7 |
| 第264回理事会報告(案) | 2014年度研究会開催のお知らせ |
| ■ 年会5 | ■ 国際交流委員会だより10 |
| 第39回年会開催案内(第2次) | 国際学会開催情報 |
| ■ 学会賞 | 国際学会参加報告(19) |
| 第38回年会発表賞の決定6 | 国際学会参加報告(20) |
| | ■ 編集委員会だより13 |
| | 2014年度第1回編集理事会報告 |
| | ■ 広報委員会からのお知らせ14 |

一般社団法人日本科学教育学会第264回理事会報告（案）

下記に第264回理事会報告（案）を掲載します。なお、これは議事要録承認前のものであり、要点のみを参考に掲載するものです。

日 時 2014年11月15日（土）17:00～18:00
会 場 コクヨ 品川オフィス
出席者 会長 中山
副会長 余田 吉岡
理事 佐伯 坂谷内 寺田 村山 鈴木（誠） 鈴木（栄） 荻原
千葉 山下 日野 谷塚
監事 熊野 片平
幹事 青山
オブザーバー 久保田

1. 議事要録（案）の承認

○第262、263回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第264回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果を承認した。

○事務局からの発議により、9月30日までに入会を希望した7名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された。

○事務局からの発議により、10月31日までに入会を希望した8名を電子会議により審査した結果、全員の入会が承認された。

○会長からの発議により、若手活性化委員会の設置、若手活性化委員会規程、設立時の委員長、副委員長、委員が提案され、メール審議によりこれらが認められた。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

○顧問、評議員等の方々へ礼状送付の報告があった。

○顧問、評議員等への委嘱状送付の報告があった。

○各種メーリングリスト作成の報告があった。

2) 経理・会員

○研究会開催における経理処理について報告があった。

○「経理ガイドライン」について報告があった。

○総会時の経理に関する質問の回答として、年会開催に伴う広告収入については年会収入に組み込むこ

と、年会参加費は不課税であることが報告された。

3) 機関誌編集

- 「科学教育研究」の編集状況について報告があった。
- HP の改変を計画中である旨の報告があった。

4) 学会賞

- 年会発表賞の投票結果を学会賞委員会に報告し、候補推薦について、学会賞委員会の審議にかけた旨の報告があった。

5) 支部・研究会

- 研究会の開催状況について、第 1 回研究会が開催された旨報告があった。
- 第 2 回、第 3 回、第 4 回研究会の準備状況について報告があった。
- 第 1 回研究会研究報告の発表論文 PDF 外注に関する作業実態についての報告があった。

6) 調査研究・学術交流

- 来週開催予定の教科理科関連学会協議会に出席する旨の報告があった。

7) 国際交流

- ICASE の学会費の支払いが 2014 年度は免除された旨の報告があった。

8) 年会企画

- 来年度年会（山形大会）の準備状況について、年会テーマ、日程、キックオフミーティングでの協議内容等について報告があった。
- 第 40 回年会開催校の決定に難航している旨の報告があった。
- 年会予稿集の電子化について検索可能になるように業者依頼をする旨の提案があった。

9) 広報・学会 IT 化

- 『科学教育研究レター』の編集・発行について、2014 年 12 月発行号の記事募集が始まっている旨の報告があった。
- 国立国会図書館「オンライン資料収集制度（e デポ）」の収集・保存状況について、学会の Web サイトで公開されているレターと学会通信が e デポに収集されていることが確認できたが、閲覧は国会図書館内に限られていることが報告された。

10) 若手活性化

- 若手活性化委員会の委員構成、および平成 26 年度第 3 回日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）の準備状況について報告があった。

11) その他

- 電子化部会の行っている学会の刊行物に関する確認作業の進捗状況について報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者1名の退会について承認した。

前回理事会：会員数 1,397名（正会員 1,226名、学生会員 140名、名誉会員 11名、公共会員 2名、賛助会員 3名、シニア会員 15名）（2014年9月1日付）

2) 学会賞

○年会発表賞候補について学会賞選考委員会から、下記4件の年会発表賞候補について推薦があり承認した。

- ・1A1-I2 東垂水琢哉（三重大学大学院）他
- ・1G3-K4 村津啓太（日本学術振興会特別研究員／神戸大学）他
- ・3A2-E3 峰野宏祐（東京学芸大学附属世田谷中学校）
- ・3G1-L2 土佐幸子（新潟大学）

○功労賞規程案について提案があり意見聴取を行った。次回の理事会での継続審議となった。

3) 支部・研究会 / 経理・会員

○北海道支部長の委嘱について、北海道支部長の体調不良に関連する経緯の説明と交代のための検討状況が説明され、支部長候補が決まった時点で、理事会メール審議などで対応することになった。

○研究会担当幹事の選任について、竹中真希子会員（大分大学）に研究会企画委員会幹事を委嘱することが承認された。

○研究会研究報告の発表論文 PDF 化外注を今年度は継続したい旨の提案があり、この経費は研究会・支部活動推進の事業費では継続できないので、予備費（事業費）から支出することを承認した。

4) 電子会議規程

○電子会議規程が提案され、第1条の括弧書き部分を（電子会議）に差し替えたものが承認された。

5) 年会企画

○年会企画委員会の委員（追加）の委嘱について、小泉健輔会員（高崎健康福祉大学）に年会企画委員を委嘱することが承認された。

○第38回年会の決算書について、資料に基づき報告があり、承認された。

6) その他

○学生会員の規定および扱い等について他学会の事例報告があり、博士課程の学生を学生会員扱いにする方向性で今後も検討する旨が確認された。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第265回：2015年3月14日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス
- ・第266回：2015年6月20日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス
- ・第267回：2015年8月日時未定 場所：山形大学

第 39 回年会 開催案内 (第 2 次)

1. 日程 : 2015 年 8 月 21 日 (金) ~ 23 日 (日) (3 日間)
2. 会場 : 山形大学 (小白川キャンパス)
(〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12)
<http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>
3. 主催 : 一般社団法人日本科学教育学会 (後援 : 未定)
4. 年会実行委員会 : [実行委員長] 今村哲史
[実行委員] 市川 啓、鈴木宏昭
5. 連絡先 : 日本科学教育学会第 39 回年会実行委員会
〒990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12
山形大学地域教育文化学部 今村哲史
6. 内容 : 次の内容を予定 (詳細は年会 Web サイト及び次号『科学教育研究レター』で案内)
テーマ : 学びの原点への回帰 - 新時代に対応した科学教育研究 -
 - (1) シンポジウム
 - (2) 課題研究発表
 - (3) 一般研究発表
 - (4) インタラクティブセッション
 - (5) その他の企画 : 代議員総会、懇親会、各種会合など

第 38 回年会発表賞の決定

学会賞選考委員会では、第38回年会発表賞について、会員からの推薦にもとづいて慎重に審議を重ね、候補者の選考を進めてまいりました。2014年11月15日に開催された第264回理事会の議を経て、下記の4件に対して2015年度年会発表賞を授与することを決定しました。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

【年会発表賞】

東垂水琢哉（三重大学大学院）・平賀伸夫（三重大学）・中村千恵（三重県総合博物館）・北村淳一（三重県総合博物館）

発表論文：貸し出し教材で学校と博物館をつなぐ、第38回年会論文集、pp.185-188、2014

選定理由：学校の博物館利用の充実を貸し出し教材の利用に着目して行った興味深い研究で、博物館と学校の連携を具体的に進めていくための貴重な実践的知見を提供している。特に、教材パッケージの開発、形成的評価によるその改善、研修の導入等の工夫に加え、貸し出し教材の導入効果を評価している点に価値が認められる。

村津啓太（日本学術振興会特別研究員/神戸大学）・稲垣成哲（神戸大学）・山口悦司（神戸大学）・山本智一（宮崎大学）・坂本美紀（神戸大学）・神山真一（神戸大学/神戸大学附属小学校）

発表論文：口頭のアーギュメンテーションにおける反論を促進する教授方略の改善と評価 反論の基準に関する理解に着目して、第38回年会論文集、pp.413-414、2014

選定理由：アーギュメンテーションにおける反論の基準の理解と反論レベルとの相関を確認し、アーギュメンテーションを促進する教授方略を改善した効果を明瞭に示しており、独自性のある着実な研究が展開されている。

峰野宏祐（東京学芸大学附属世田谷中学校）

発表論文：数学的モデリングの授業実践における検討課題に関する事例的考察、第38回年会論文集、pp.41-44、2014

選定理由：数学的モデリングの授業実践の蓄積を通して顕在化した研究課題を、興味深い実践事例によって分析的に整理して特定しており、今後の研究の方向性を明確に示している。

土佐幸子（新潟大学）

発表論文：データロガーを用いた研修が理科教員へ与える効果—探究的指導法に関する教員の気づきに着目して—、第38回年会論文集、pp.477-478、2014

選定理由：探究的指導法に関する教員研修プログラムの実施におけるICT機器の活用について、質的研究方法によって実証的に検討した価値ある実践研究であり、ICT機器を活用した科学教育研究としての今後の発展が期待される。

（学会賞担当理事 三宅、清水）

2014 年度研究会開催のお知らせ

2014 年度研究会の開催に関しては、下記の通りです。なお、案内及びプログラムなどの詳細については、学会ホームページに順次掲載するので、ご覧ください。なお、研究会での発表資格を持つのは本学会正会員および学生会員です。単名または連名発表者に 1 名以上の会員を含む必要がありますのでご注意ください。

(1) 2014 年度第 5 回日本科学教育学会研究会 (南関東支部開催)

[テーマ] 役立つ・わかる・面白い理科(科学)の授業

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2015 年 3 月 7 日(土) 10:00~17:30

[会場] 桐蔭横浜大学 中央棟 C413 教室

〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。

会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[問い合わせ先] 2014 年度第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員:

[hirata \[at mark\] u-gakugei.ac.jp](mailto:hirata[at mark]u-gakugei.ac.jp) 平田昭雄 (東京学芸大学)

[発表申込] 発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 企画編集委員: 平田昭雄 (東京学芸大学) までお送りください。

発表申込締切は、2015 年 1 月 7 日(火)です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします。原稿送付締切は、2015 年 2 月 7 日(土)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 南関東支部長 鎌田正裕 (東京学芸大学)

(2) 2014 年度第 7 回日本科学教育学会研究会 (北関東支部開催)

[テーマ] 科学教育教員養成と理科・数学の授業

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[日時] 2015 年 5 月 16 日(土) 10:00~17:00

(プログラムの詳細は後日決定します)

[会場] 群馬大学 教育学部 C 棟 203、206 教室 (群馬大学荒牧キャンパス)

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧 4-2

[対象] 会員、教員、学生、社会人

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。参加費は無料です。
会員でない方も参加いただけますが、発表は会員に限られます。

[担当] 群馬県支部長 西谷 泉 (群馬大学)

[申込み・原稿送付先] 2014年度第7回日本科学教育学会研究会・企画編集委員
masuda [at mark] gunma-u.ac.jp 益田裕充 (群馬大学)

[発表申込・原稿締切について]

発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記したE-mailを企画編集委員：益田裕充(群馬大学)までお送りください。

発表時間は12分、質疑応答3分、計15分を予定しています。なお、発表者は当日パソコンを持参してください。プロジェクタ・スクリーンは準備しております。

発表申込締切は、2015年3月20日(金)です。

発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。原稿送付締切は、2015年4月13日(月)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 北関東支部長 人見久城 (宇都宮大学)

(3) 2014年度第8回日本科学教育学会研究会 (中国支部開催)

[テーマ] より良い社会づくりに向けた科学教育の実践と研究

[主催] 一般社団法人日本科学教育学会

[後援] 鳥取県教育委員会 (予定)、鳥取市教育委員会 (予定)

[日時] 2015年5月30日(土) 10:00~17:00

[会場] 鳥取大学 鳥取キャンパス

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込] 発表は、単名または連名発表者に1名以上の会員を含むことが条件となります。希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mailアドレス、電話番号、連絡先住所、使用機器を明記したE-mailを2014年度第8回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：前波晴彦(鳥取大学)までお送りください。

maenami [at mark] cjrd.tottori-u.ac.jp 前波晴彦 (鳥取大学)

発表申込締切は、2015年5月1日(金)です。

[原稿提出] 発表原稿様式等については、発表申込があった方にE-mailにてお知らせいたします。
原稿提出締切は、2015年5月8日(金)です。

多数の方々の申込をお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 藤井浩樹 (岡山大学)

(4) 2014 年度の研究会開催予定

2014 年度 5 月以降の研究会の開催については、次の通りである。

- 2014 年度第 6 回日本科学教育学会研究会(四国支部開催)

[テーマ] 未定

[日 時] 2015 年 5 月 9 日 (土) 予定

[会 場] 香川大学幸町キャンパス研究交流棟 5 階研究者交流スペース

企画編集委員：林 敏浩 (香川大学) [hayashi \[at mark\] eng.kagawa-u.ac.jp](mailto:hayashi[at mark]eng.kagawa-u.ac.jp)

- 2014 年度第 9 回日本科学教育学会研究会(東海支部開催)

[日 時] 2015 年 6 月下旬 (計画中)

国際学会開催情報

今後、下記の4つの国際学会が開催予定である。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1) IOSTE Eurasia Regional Symposium & Brokerage Event Horizon 2020

開催地：Istanbul・Turkey

期間：2015年4月24日～26日

締切：2015年1月15日（論文投稿締切）

2015年3月2日（Early Bird 参加申込締切）

<http://www.ioste2015.org/>

（千葉大学教育学部・山下修一）

2) The 11th Conference of the European Science Education Research Association (ESERA)

開催地：Helsinki, Finland

期間：2015年8月31日～9月4日

締切：2015年1月31日（プロポーザル投稿締切）

2015年5月5日（Early Bird 参加申込締切）

2015年6月10日（参加申込締切）

<http://www.esera2015.org/>

（コペンハーゲン大学科学教育研究科・吉田実久）

3) Global Conference on Learning and Technology (Global Learn 2015)

開催地：Berlin, Germany

期間：2015年4月16日～17日

締切：2014年12月15日（プロポーザル投稿締切）

2015年3月2日（Early Bird 参加申込締切）

<http://www.aace.org/conf/glearn/default.htm>

4) World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia 2015)

開催地：Montréal, Québec, Canada

期間：2015年6月22日～25日

締切：2014年12月12日（プロポーザル投稿締切）

2015年3月4日（Early Bird 参加申込締切）

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

（専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男）

IOSTE (the International Organization for Science and Technology Education : 国際科学技術教育学会) の 2014 年大会が、マレーシアのサラワク州クチンにおいて、9 月 21 日から 27 日にかけて開催されました。IOSTE は、世界各国の科学技術教育の学術交流を目的として、1979 年に設立された学会です。最新の学会役員名簿には、韓国、イラン、スウェーデン、ポルトガル、オーストラリア、マレーシア、南アフリカ、フランス、トルコ、チェコ、デンマーク、イギリス、ブラジル、アメリカといった国名が挙がっています。このように、国際色がとても豊かな学会です。国際連合教育科学文化機関 (UNESCO/ユネスコ) の公式パートナー学会にも選ばれています。

学会の大会は、IOSTE においてはシンポジウム (Symposium) と呼ばれており、隔年ごとに開催されています。2014 年の大会は、通算で第 16 回目の大会でした。参加者については、大会実行委員会の Maragaret Chan 先生 (マラ工科大学) の報告によりますと、マレーシア以外の国々からの参加者が 15 カ国以上 40 名、地元の現職教員が 60 名、教員志望の学生が 18 名、大学生が 100 名であったとのことです。大会プログラムの内訳は、基調講演 (Keynote) が 4 件、全員参加の口頭発表 (Plenary Sessions) が 6 件、複数会場で同時進行される一般口頭発表 (Parallel Sessions) が 64 件、ポスター発表が 6 件、ラウンドテーブルが 3 件でした。発表テーマは、環境問題、科学技術の社会問題、宗教と進化、教育の公平性・平等性、教授・学習、教師教育、教育評価、ICT 利用など、多岐にわたっていました。大会プロシーディングスは、本学会の年会論文集とは異なり、大会終了後に発刊されます。2014 年大会のプロシーディングスは、Elsevier 社のオープン・アクセスのジャーナル The Procedia: Social and Behavioral Sciences の 1 つの巻として間もなく発刊される予定です。大会関係者の方から、多くの審査付きフルペーパーが掲載されると伺っています。

日本からの参加者は、筆者を含めて計 5 名でした。鈴木一正氏 (神戸大学) は、全員参加の口頭発表 6 件のうちの 1 件に選ばれて、ラーニング・プログレッションズの国際比較に関する研究発表を行いました。また、一般口頭発表として、三宅志穂先生 (神戸女学院大学) は科学絵本に関して、村津啓太氏 (神戸大学) はアーギュメンテーションに関して、山橋知香氏 (神戸大学) は動物園における紙芝居利用に関して、それぞれ研究発表を行いました。いずれの発表会場においても、発表者と各国の参加者が、発表時間の最後まで活発な質疑応答を行っていました。

次回の大会は、2016 年の開催です。ポルトガルでの開催が決定されています。2016 年の大会 Web ページはまだ開設されていませんが、詳細が決まり次第、IOSTE の学会 Web ページに大会情報が掲載されたり、2016 年の大会 Web ページへのリンクが作成されたりすると思います。2016 年大会の発表・参加にご興味がおありでしたら、学会 Web ページを定期的にご確認ください。また、この参加報告の執筆段階では、2014 年大会の Web ページはまだ閲覧できました。そこには、大会プログラムのほか、発表申込や参加申込に関する情報が掲載されています。2014 年大会の情報から、2016 年大会の概要をうかがい知ることができると思います。

IOSTE の学会 Web ページ : <http://ioste.nmmu.ac.za/en/top/Homepage/>

IOSTE2014 年大会の Web ページ : <http://www.iosteborneo.com/>

(神戸大学・山口悦司)

International Society of Educational Research (iSER) 2014 World Conference に参加して

2014年10月29日から11月2日まで、トルコ・カッパドキアで開催された iSER World Conference に参加しました。日本からは私も含めて4名が発表しました。この学会はトルコが主導して開催しており、関連する学会誌に EURASIA Journal of Mathematics、 Science and Technology Education があります。

発表件数はキーノートスピーチが6件、口頭発表が89件、ポスター発表が25件ありました。分野に関しては、科学教育と数学教育の内容が目立ちました。参加者のほとんどはトルコ国内からでしたが、アメリカ、台湾、ドイツ、ノルウェー、スウェーデン、フランスなど各国からの参加もありました。会場の受付を担当していた方や発表者の中には英語が話せない人もおり、時々コミュニケーションに困りましたが、全体的にはこじんまりとした、アットホームな雰囲気の中で、なごやかな空気に包まれながら過ごしました。

キーノートスピーチは、Ingo Eilks 氏、Svein Sjøberg 氏、Jonathan Osborne 氏、Marcia C. Linn 氏など、科学教育学術界を代表する研究者によるものでした。Svein 氏は2008年に私が特定国派遣研究者としてノルウェーを訪れたときにお世話になった先生です。オスロ大学での職をリタイアされた現在も、研究と講演活動を精力的に行っており、キーノートスピーチでは‘School Science: Context-based or by Global Standards? The Influence of an International Test Regime’ と題して、科学教育というもの現実について、統計データの動向による解釈と実際の教育現場からの解釈というふたつの視点から批判的に議論されていました。論文や雑誌記事で読むのとは違い、実際に先生の顔の表情を見て、その声を通して聞くと、内容や言葉は同様なものでも、理解できる範囲が違ってくるのだなということが体験できるスピーチでした。

この小さな国際学会に参加してみて、国を超えた先生、先輩、同僚、後輩、さまざまな研究者との交流を通して、自分の研究分野とはちょっと異なるフィールドのことも知り、関心を広げたり深めたりすることができました。忙しい毎日を過ごしていると学会への参加意欲も低下しがちですが、さらに研究活動を進めていきたいくなる素敵な仲間と出会うためにも、足を伸ばして外に出かけることが大切だと思います。そこにしかないおいしいものや、ものを見たり、感じたりするもできますよ。

iSER のホームページ <http://iser-icer.net>

<https://www.facebook.com/media/set/?set=a.367506960065827.1073741839.220022651480926&type=1>

(神戸女学院大学・三宅志穂)

2014 年度第 1 回編集理事会報告

2014 年 11 月 15 日（土）10:50～13:50、2014 年度第 1 回編集理事会がコクヨ品川オフィス 1 階において開催された。

まず、「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文（2014.9.1～2014.10.31）：33 編（内訳：和文 30 編、英文 3 編）、査読中論文（2013.10.31 現在）：44 編（内訳：担当編集委員選定中：6 編、査読者選定中：6 編、査読中（1 回目）：6 編、改訂稿待ち：4 編、査読中（2 回目）：3 編）、掲載決定論文（2013.9.1～2013.10.31 現在）：2 編（内訳：研究論文 1 編、プラザ：1 編（通算合計 38-4：3 編））。

次に、特集編集副部長から、第 39 巻特集「科学・技術（Science and Technology）」について、進捗報告があった。他には、担当編集委員依頼・確認方法・再査読の方法等の改訂、2014 年度 40 巻特集号のテーマ、執筆要項等について、正副委員長および編集担当理事より説明があり、意見交換が行われた。

次回、2014 年度第 2 回編集理事会は、2015 年 3 月 14 日（土）、11:00～14:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成 26 年 10 月 31 日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2013年 11月	6	1	36	2	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		5	1
2013年 12月	5	0	35	1	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	1
2014年 1月	4	0	32	1	1 (38-1) 1 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		3	2
2014年 2月	1	0	27	1	0 (38-1) 2 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	0
2014年 3月	4	0	24	1	4 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	0		3	0
2014年 4月	4	0	19	1	3 (38-2) 0 (38-3)	0 (38-2) 0 (38-3)	1 (38-2)		4	2
2014年 5月	5	0	16	0	3 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		5	1
2014年 6月	7	2	18	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		4	0
2014年 7月	3	0	19	2	1 (38-3) 0 (38-4)	0 (38-3) 0 (38-4)	0		1	0
2014年 8月	3	0	17	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		5	0
2014年 9月	8	1	23	1	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		2	0
2014年 10月	22	2	41	3	1 (38-4) 0 (39-1)	0 (38-4) 0 (39-1)	0		3	0

招待論文については、新規投稿数、審査中論文数に加えておりません

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 220 号をお届けします。一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：谷塚光典（信州大）	森田裕介（早稲田大）	
委員：渡邊慶子（滋賀大）	久保田善彦（宇都宮大）	鈴木 誠（北海道大）
荻原 彰（三重大）	清水美憲（筑波大）	望月俊男（専修大）
谷田親彦（広島大）	辻 宏子（明治学院大）	
幹 事：内ノ倉真吾（鹿児島大）	小松孝太郎（信州大）	

科学教育研究レター編集 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□ 事務局 中西印刷（株） 学会部 内

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□ 編集事務局（論文投稿・査読編集）

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座：00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座：みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会